

2012年10月12日
東日本旅客鉄道株式会社

東北でSLが復活します！～SL銀河鉄道(仮称)～

- JR東日本では、C61形、C57形、D51形の3両の蒸気機関車を保有し、「SLばんえつ物語号」「SLみなかみ号」「SL碓氷号」などとして運行し、お客さまからご好評をいただいております。
- 東北地方にご旅行される多くのお客さまにSLの旅を体験していただくことで、観光面からの復興支援および地域の活性化を目的として、SL牽引の列車「SL銀河鉄道」を来年度の冬以降に運転します。
- この度のSL復元は、鉄道の産業遺産である蒸気機関車を後世に伝えることも目的としており、盛岡市にある岩手県営運動公園内の交通公園に展示保存されている「C58 239」を使用します。
- 列車が牽引する客車は、銀河鉄道をコンセプトとしてプロデュースする予定です。指定席車及びオープンスペース車からなる4両編成で検討しています。

1. 復元する蒸気機関車 C58 239 別紙参照

この蒸気機関車は、日本全国で活躍し、最後に岩手県を中心に活躍したC58 239号機です。

2. 列車の運行

2013年度冬以降の運行を計画しており、釜石線を中心とした東北エリアで、土休日などに年間80日程度の運行を検討しています。また東北各地で開催されるイベントやキャンペーンに合わせて東北エリアの各線区での運行も検討しています。

3. 客車の概要

コンセプト

「銀河鉄道」をコンセプトとし、同時に東北の「文化・自然・風景」を感じていただける車内空間としてプロデュースする予定です。

デザイン

世界的な工業デザイナーで KEN OKUYAMA DESIGN 代表の奥山 清行氏のプロデュースによります。具体的なデザインが決定しましたら改めてお知らせいたしますので、今後のお知らせにご期待下さい。

車両形式

動力付のキハ141系(旧50系客車改造車)を使用した指定席車及びオープンスペース車からなる4両編成を予定しています。釜石線では途中こう配区間を走行するなど本機関車のみでの牽引が困難であるため、動力付のキハ141系(旧50系客車改造車)をJR北海道から購入して、改造する予定です。



列車イメージ※

(※沿線や東北の歴史、自然、文学、寛ぎ、発見をコラージュイメージしたもので、実際の車両とは異なります)

復元する蒸気機関車 C58 239 の概要

1. C58形蒸気機関車について

C58形蒸気機関車は1938年(昭和13年)に誕生し、10年間に427両製造されました。この機関車は中型の旅客・貨物両用の機関車で、国鉄の蒸気機関車としてはじめて密閉型の運転室が採用されました。

このC58形蒸気機関車は当時の国鉄により全国の広範囲に投入配置され、戦後ディーゼル機関車への置き換えが始まるまで全国の地方線区で活躍しました。

2. C58 239号機について

今回復元することとなった239号機は1940年(昭和15年)6月に製造され、1972年(昭和47年)に用途廃止となるまでの32年間のうち27年間、宮古機関区(当時)を中心とした岩手県で活躍していました。またその間の1970年(昭和45年)2月28日の「山田線、さようなら」貨物列車も、当機関車が牽引しました。

現在の岩手県営運動公園には1973年(昭和48年)5月1日より静態保存されています。

車両諸元(国鉄当時)

全長	18,275mm
全高	3,940mm
全幅	2,936mm
車軸配置	1C1
固定軸距	3,470mm
動輪直径	1,520mm
ボイラー水容量	4.6m ³
機関車重量(空車)	53.60t
炭水車重量(空車)	18.50t
機関車重量(運転整備)	58.70t
炭水車重量(運転整備)	41.50t
動輪軸重(最大)	13.50t

車両履歴 C58 239号機

1940年6月	製造(川崎車両)
1940年6月26日	名古屋局配置
1941年3月	奈良機関区
1943年5月	宮古機関区
1970年3月	盛岡機関区
1972年5月22日	廃車
1973年5月1日	現箇所保存

